

在宅介護で一番大変なことは何か？ 当然、入浴や歩行介助などの肉体的疲れが辛イかと思っていたら、現実はそのようではなかった。

全国介護者支援協議会が、在宅で介護を行っている人にアンケートしたところ、トップは「自分の気持ちを安定した状態にしておくこと」（41%）。以下、「要介護者に薬をきちんと飲ませること」（36%）、「要介護者に自分の気持ちが伝わらないこと」（33%）が続いた。肉体的な苦痛は、4位の「トイレ介助」（29%）でようやく顔を出してい



る。うつ病や老親虐待の火種になる悩みが上位になるのは納得だが、意外だったのは、2位に「薬を飲ませること」が入っていることだ。

全国介護者支援協議会の上原喜光理事長が実情をこう説明する。

「世に出回る介護関連書籍のほとんどが、上手に薬を飲ませる方法を教えてくれています。しかし、老親に薬を飲んでもらうことは本当に最も骨が折れる。平均3～4錠の服薬があるが、高齢になるとのみ込みが弱く、これに認知症も加われば、全てを飲ませるの

肉体的疲労ではない！在宅介護で大変なのは

に1時間もかかることがあった。これが朝昼晩と続くのですから、寝る時間を削るしかないのです」薬でヘトヘトなのだ。

しかし、そんな家族の負担を大幅に軽減する話もある。例えば、アステラス製薬は日本に1000万人以上の患者がいる骨粗しょう症の治療薬として、4週に1回飲めばいいという「ボノテオ50mg」を新発売した。

「これまでの薬は1日1回の服薬でしたが、1カ月に1回ならラク。飲み忘れのリスクも減ります。すべての薬がこうなるのは難しいが、薬剤進化のひとつの方向性だと思います」（上原氏）

1カ月に1回なら財布にもやさしい。